就労支援ネットワークについて

「たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワーク」

2017（H29）年度報告書

たかつき・しまもと障がい者
就労支援ネットワーク事務局

〇立ち上げ当初からの仮説

地域に就労支援に精通した支援者が多ければ多いほど、その地域の就労支援は充実したものとなり、就労を望む障がいのある方の希望を実現できるのではないか。

〇基本コンセプト

出入り自由	他の地域の方でも大歓迎！
支援者のスキルアップ	インプットとアウトプットの場を設ける 実務担当者が顔の見える関係を築ける機会とする
圧力団体にしない	純粋な学びと交流の場とする

〇将来像

ネットワーク（地域）がひとつの支援機関へ	スムーズな連携と効果的な支援の提供 高槻・島本地域の支援機関なら安心だという信頼
社会に認知されるネットワークへ	企業、地域からの信頼と参加

〇実施方法

〈運営会議〉下記の運営委員にてネットワーク会議の内容について企画・運営（月 1 回程度）

１～4 期	サニースポット、高槻地域生活支援センター、高槻市障がい者就業・生活支援センター（以下、就業・生活支援センター）	08 年～11 年
５～７期	サニースポット、高槻西部地活動支援センターステップ、就業・生活支援センター	12 年～14 年
８期～10 期	サニースポット、芥川事業所、就業・生活支援センター	15 年～16 年
11 期～	育成福祉会就労支援事業室、サニースポット、芥川事業所、 就業・生活支援センター	17 年～

〈ネットワーク会議〉下記の内容で実施

講演会	・他の地域で先進的に取り組まれている就労支援機関を中心に講師に招き学習する。 ・ディスカッションの機会を設け参加者同士がつながっていくことをねらう。	（月 1 回程度 5 月～3 月）
10 分トーク	地域のネットワーク参加機関より 10 分程度のプレゼンテーションをして頂き、取り組み内容を共有する。また、発表の機会を提供することで発表者自身のスキルアップをねらう。	
情報提供	就労支援に関する制度、実習の機会など関係する情報をネットワーク会議にて提供する場とする。	
共有ツール	地域の就労支援機関で共有できるツールを実行委員会制にて企画・作成。目的をもって担当者同士が共に作業をすることで、担当者同士のつながりをねらう。また有益な成果物の作成を行う。 09 年支援者向けアセスメントツール集　10 年いっぽ第 1 版（当事者向け社会資源集）　11 年初任者向け教育ビデオ 12 年いっぽ第 2 版	随時

ワーキングチーム	就労ネット参加者が自主的に課題などに向けた取り組みを行う。 現在、精神、就労支援基礎講座など７ワーキングが活動中。	随時
情報発信	・ホームページを作成し広報を行うことで地域から見えるネットワークとする。企業から雇い入れの相談や軽作業の受注、他の地域の就労ネットワークからの視察などの効果が得られた。 https://takashimanet.jimdo.com/ ・実施案内は参加機関にメール（5期の後半からはメーリングリスト）にて送信。メーリングリスト登録方法はＨＰに掲載	随時

○たかつき・しまもと就労支援ネットワークの歴史

年次	内容	備考
2001年 (H13)		・就業・生活支援センターが準備センターとして開所（府と高槻市から委託）
2003年		・支援費制度施行
2004年 (H16)	保健所の精神保健福祉関係機関連絡会にてハローワーク茨木と大阪障害者職業センター、就業・生活支援センターが連絡会参加機関と「ジョブガイダンス事業」「グループ就労事業」を実施。精神障がいのある方への就労支援のネットワークが形成される。	
2005年 (H17)	高槻地域生活支援センターと就業・生活支援センターで就労支援ネットワークのあり方を検討し、当時就労支援について検討されていたサニースポットにも参加を依頼し、連携について検討する。	・ジョブコーチ助成金制度創設
2006年 (H18)	障害者就労支援実務者連携協力会 ・共同での職場開拓、共通名刺などを検討	・就業・生活支援センター国制度に移行（労働局と府から委託） ・自立支援法施行 ・就労移行事業化 ・精神障がい者雇用率算定
2007年 (H19)	就労をなんとかしよう会 ・広く有志を募って就労支援の勉強会を行う	・福祉から雇用へ推進５か年計画
2008年 (H20)	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワーク発足（3月） ・途中から大阪府障害者就労支援ネットワーク構築事業を利用	
2011年 (H23)		・福祉から雇用へ推進５か年計画最終年

2012 年 （H24）	（13 年 3 月）財源だったネットワーク構築事業が終了	
2013 年 （H25）	財源がなくなったが、地域の情報交換やワーキングチーム方式を取り入れた活動を継続	就労移行定着支援加算開始
2014 年 （H26）	地域の情報交換やグループディスカッションを取り入れ月一回の会議を継続。ワーキングチームも活動した。 就労支援基礎講座（連続講座）が開始	
2016 年 （H28）	第 100 回たかつき・しまもと就労支援ネットワーク会議と、就業・生活支援センター創設 10 周年記念講演会を同時開催	

○就労支援ネットワークのキーワード

１　バトンタッチ型からネットワーク型の支援へ

・ここから担当支援機関が変わりますという形から連携して支援していく形へ

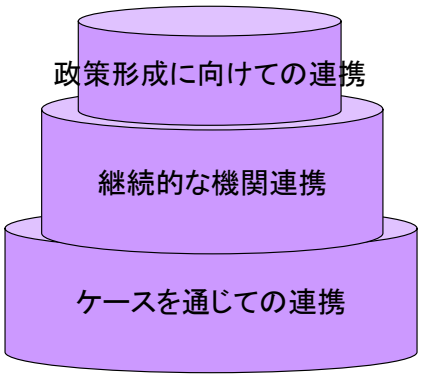
２　立場の違いを十分に認識する

・他機関の得意分野、不得意分野を知る

・制度の限界を知る

・所属機関の状況を周知する（得意分野、不得意分野を伝える）

3　ネットワークは重層的に存在する



資料：松為信雄 2009

政策形成に向けての連携

・自立支援協議会

継続的な機関連携

・就労支援ネットワーク

ケースを通じての連携

・個別支援会議など

○就労ネット組織図

ネットワーク会議（原則月一回開催）
支援力向上の研修や情報交換などを行う場

運営会議（原則月一回開催）
事務局によるネットワーク会議の
企画・運営

ワーキングチーム（必要時に随時活動）　ワーキングチーム
特定の地域ニーズ・課題に特化した活動を実施

○2017（H29）年度のまとめ

2008 年３月に発足した、たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワーク（以下、就労ネット）は、参加者の熱意によって 2017（H29）年度もこれまで通り、原則月に一度会議を開き活動を続ける事ができた。

そして、立ち上げ当初からの仮設

「　地域に就労支援に精通した支援者が多ければ多いほど、その地域の就労支援は充実したものとなり、就労を望む障がいのある方の希望を実現できるのではないか　」

をもとに、毎月の会議を中心にして以下の取り組みを行なった。

・5 月　2017（H29）年度　ネットワーク会議の振り返りとワールドカフェ
・6 月　就労移行支援事業所アピール合戦
・7 月　障害のある人たちの居場所（サードプレイス）　カフェバー　チャージ
・8 月　懇親会（松坂屋ビアガーデン）
・9 月　企業の雇用管理
・10 月　支援学校の就労支援について
・11 月　社会福祉協議会について
・12 月　人権研修　ＬＧＢＴ
・１月　高槻市障がい者就業・生活支援センター　運営協議会
・２月　定着支援事業について
・３月　４月からの障がい者雇用促進法について
・毎月の会議で、10 分トークのよる地域支援者からの情報発信・情報共有
・ワーキングチームによる活動
・「障がいのあるお子様のより良い就労の実現のために役割を考える」セミナー

以上の取り組みは、大別すると以下の三つに分類されると考える

1、　支援力向上に向けた取り組み

仮説を実行する為に支援力向上に向けた取り組みを行ったが、支援力と一言でいっても、

「①　就労支援の知識・スキルアップ」　と

「②　福祉専門職として基礎力アップ」

に分けて考える事ができ、就労ネットでは両方の取り組みを行っている。

①就労支援の知識・スキルアップ

就労支援の知識やスキルを学ぶ事を活動の中心として、先駆的な取り組みをしている講師を招いたり、高槻・島本地域の就労支援の情報共有をしたりした。そこで得た知識は、より良い支援と連携に役立つものと思われる。

「就労移行支援事業所アピール合戦」

「企業の雇用管理」　　「支援学校の就労支援について」

「定着支援事業について」　　「４月からの雇用促進法について」など

②福祉専門職としての基礎力アップ

障がい者就労支援を担う者には、土台に福祉専門職の力が必要であり、その基礎力アップの研修も行った。

就労支援は連携が必要である為、就労ネットも門戸の広いネットワークとしているが、生活支援機関・医療機関からの参加者が増え、就労支援機関と生活支援機関、医療機関等との連携・協働とネットワーク作りのきっかけとなる効果も期待される。

「障害のある人たちの居場所」　　「社会福祉協議会について」

「人権研修　ＬＧＢＴ」　など

2、　<u>連携とネットワーク構築のさらなる工夫</u>

参加者全員でネットワーク維持・存続に取り組める様な工夫を行った。

①会議のテーマ自体を連携・ネットワークとした。

「2016（H28）年度　ネットワーク会議の振り返り」

「高槻市障がい者就業・生活支援センター　運営協議会」

②連携が深まる会議になる様な工夫をした

・ほぼ毎回グループディスカッションの実施。グループもくじ引きで決めた。

・地域の情報発信の 10 分トークをくじ引きで決めた

・女子部による懇親会等の実施

ネットワークのあり方や状況を知識として得る事に加え、ネットワーク会議という名の通り、講義形式だけではなく、参加者同士で話し合う機会や発表する機会を積極的に設けている。参加者の交流が深まり、現場での連携・支援にも役立っていると思われる。

そしてさらには、地域のニーズや課題を一緒に考えたり、共有したりする重要な機会となっている。

３　　地域のニーズや課題への取り組み

他機関との交流･ネットワークが深まる中で、見えてくる地域の様々なニーズや課題に、フットワーク軽く取り組める様に毎月の会議に加え、ワーキングチーム方式を取り入れている。

①　「障がいのあるお子様のより良い就労の実現のために役割を考える」セミナー

今年度で３回目の開催。１２月７日に開催１２４名が参加。主催は高槻市と高槻市障がい者就業・生活支援センターであるが、就労ネットは協力団体として積極的に関わった。働いている当事者や、その家族、雇用している企業の講演により当事者や家族に就労への見通しを伝え、就労へ不安を抱えている軽減してもらう取り組みを行った。就労移行支援事業所のサービス内容等の説明会・相談会も実施し、協働により行い地域連携が深まったと考える。

②　ワーキングチームの活動　別紙活動報告参照

・就労支援基礎講座ワーキング　　・精神ワーキング
・就労移行サビ管ワーキング　　・就労継続Ｂ型ワーキング
・企業ワーキング　　・サポート教材製作ワーキング
・就労者交流ワーキング　　・(女子部)

最後に

就労ネットは、各支援機関・各支援者が連携・協働していく為の知識を得え、支援力アップ出来る場となっている。さらに就労ネットの存在により連携・協働が促進・維持されており、高槻・島本地域の就労支援に必要な社会資源として定着してきた歴史がある。

124 名の参加があった「障がいのあるお子様のより良い就労の実現のために役割を考える」セミナーは、任意の会である為、協力という形をとってはいるが、実質、運営しているスタッフの多くは就労ネットのメンバーであった。計 11 回のネットワーク会議の参加者も述べ 297 名となっており、任意の会ながら高槻・島本地域の就労支援の中心となるネットワークとなっている。

そして今年度は、ワーキングチームが５つ増え、合計 7 つが活動しており、ワーキング元年と呼べる年度といえるだろう。来年度はニーズや地域課題に対してさらに具体的な活動ができるであろうと考えそれに期待したい。

2018（H30）年度も就労を望む障がいのある方の希望実現の為に、参加者全員で就労ネットを維持・存続し、毎月の会議を開催しながら、就労支援基礎講座を開催し就労ネットの門戸を広げ、ワーキングチームで具体的な地域課題やニーズへ取り組んでいきたい。